

平成19年度環境技術実証モデル事業検討会

第4回 ワーキンググループ会合 議事要旨

- 1 日時 平成19年10月25日(木) 13:30～16:00
- 2 場所 港区生涯学習センター205 会議室
- 3 議題 (1) 山岳トイレに用いられるし尿処理技術の分類について
(2) 拡大ワーキンググループ等の開催について
(3) その他
- 4 出席検討員 相野谷誠志、岡城孝雄、小川武、桜井敏郎、森武昭(座長)、吉田孝男、
- 5 配布資料 資料1 小WGにおける検討結果(非公開)
資料2 山岳トイレ技術分野 事業化に向けたシナリオ(案)
資料3 モデル事業シンポジウム開催方針(案)
資料4 事業化に向けたフォローアップ調査の考え方(案)
- 6 議事 議事は公開で行われた。

環境省よりエコプロダクツ展の予定について、本年度の予定について説明が行われた。

<山岳トイレに用いられるし尿処理技術の分類について>

- 事務局より、資料1(山岳トイレに用いられるし尿処理技術の分類)についての説明が行われた。
- 検討員より、新たな処理方式を実証した場合に、追加が可能であることを示す行を挿入するよう指示があった。
- 環境省より、表のタイトルとして、山岳トイレ技術分野の対象に限ることを示すよう指摘があった。
- 検討員より、学問的分類から行われているものではないことを示す必要があることの指摘があった。
- 検討員より、分類表の説明のための文章を作成し、水の再利用の有無や電力の消費機器について記載してほしいとの意見があった。
- 検討員より、処理能力(使用人回)の表記について、再考が必要であるとの意見が出された。
- 検討員より、実証技術の一覧表において、標高、トイレ室数、利用人員、最高・最低気温とメーカーによる動作可能な気温の範囲についても検討する必要があるとの意見が出された。
- 拡大WGでは、今回の指摘事項を修正したうえで資料を提示し、意見を収集することとした。

<拡大ワーキンググループ・シンポジウム開催について>

- 環境省より、ここで提案されていることについては、山岳トイレ技術の検討において重要な課題であるが、当該技術分野の枠組み外であることも含まれているため、親検討会への提案等により整合を図っていく必要があることの指摘があった。
- 検討員より、拡大 WG の冒頭に会の開催理由を報告すべきであるとの指摘があった。
- 環境省より、諸外国のモデル事業においては、公的な費用の投入を減らしていく方向があるとの報告があった。また、事業化が成り立つ方向性で検討する必要があるとの意見があった。
- 検討員より、体制のスリム化について検討する必要があることが指摘された。
- 検討員より、検討事項については事前に参加者に提示しておくよう指示があった。
- 検討員より、拡大 WG において意見を収集し、第 5 回 WG にて検討したうえでシンポジウムに望むような流れが必要であるとの意見があった
- 検討員より、モデル事業の目的を踏まえ、シンポジウムの開催内容については、ターゲットを絞る必要があるとの指摘があった。
- 検討員より、ユーザビリティとスピードが事業化の重要な鍵であることの指摘があった。
- 拡大 WG の出席者は、従来の検討員に加え、山小屋、実証申請者、実証機関実施自治体とすることとした。
- 検討員より、シンポジウムの特徴づけについては、データベースの提示が大きな要素になり、昨年度国立公園課において取りまとめた情報は、ユーザーからの声が多く盛り込まれているため、貴重な情報となるとの意見があった。
- 検討員より、経年変化が重要となる技術分野においては、フォローアップ試験を検討することが必要であるとの意見が出された。
- 座長より、親検討会において、現在の実証運営機関の知見や技術伝承の必要性について指摘されていることが報告された。
- 検討員より、フォローアップ試験に関して、試験装置を撤去してしまった場合、どのように実施するかを検討する必要があるとの意見が出された。